

今日もまた雪



暦の上では、明日は「雨水（うすい）」。

雪が雨へと変わって降り注ぎ、降り積もった雪や氷もとけて水になる頃という意味です。雨水になると雪解け水で土が潤い始めるため、農耕の準備を始める目安とされました。にもかかわらず、いつまでも降り続く雪。去年はほとんど雪が降らなかったように思うのだが……。今日は、1年3組とサッカー部の面々が除雪を行ってくれた。と思い、過去の写真を見比べてみた。地球温暖化と言われているのに、なぜ今年はこんなに雪が多いのか？夢色通信社では、さっそく調査を開始した。



2021年2月17日撮影

まず、大気中の水蒸気量が多いと、豪雨や台風での雨の量が増えます。同じように、気温が0度を下回る場合は雨が雪になるので、大気中に水蒸気量が多いほど、大雪も起こりやすくなります。今年、日本海の海面水温が平年より1～2度高く、大気中に含まれる水蒸気が多い状態で、強い寒気入ってくると多くの水蒸気を取り込んで日本列島に大雪を降らせることとなります。なお、専門家によれば、1度上昇するごとに大気中の水蒸気は7%ほど増えるということなので、地球温暖化により、梅雨前線や台風が大気中の水蒸気を取り込み、集中豪雨を発生させるリスクが高まり、豪雨災害も深刻化していくことが予想されています。



2020年2月4日撮影

にじゅうしせつき^{うすい}二十四節気では、「雨水」の前は暦のうえで春となる「立春」、^{うすい}「雨水」の次は、冬ごもりしていた生き物が活動し始める「啓蟄」^{けいちつ}（今年は3月5日）となります。神中暦では、期末テストが終われば間もなく春となります



2019年1月25日撮影